

二〇二四年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(三回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は 一 から 二、2 ページから 19 ページまであります。
合図があったら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

一 次の文章を読んで、後の一から十までの各問いに答えなさい。

(ただし、**字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。**)

すぐに人の言うことを受け入れるのではなく、時間をかけて評価しよう。これまで、そういうことを書いてきました。言い換え
ると、疑う力を身につけようということです。

①人を疑うなんて、よくないでしょ。そんなことをしたら、aケンゼンなコミュニケーションは生まれないので、という反論
が返ってきそうですよね。

でも、相手の話やSNSで書かれていることを、何でもかんでも受け入れてしまうと、苦しくなりますよね。所詮は他人の考え
だから、合わないところもあるはずなのに、②それを気にしないほうが不ケンゼンですよ。

だから、こう考えませんか。

疑うべきは、人ではなく、言葉だと。

たとえば、コミュニケーションを通じて、心から信頼を寄せる親友ができたとしみましょう。かといって、親友の言葉がすべて
“正しい”かという点、それは違う。

だって、あらゆる出来事や事象を知っている人なんていないですからね。たまたま親友が、間違った情報を聞いて、それをあな
たに伝えるかもしれない。

誤情報というのは、悪意で流されることよりも、それが“正しい”と信じている人から発信される場合のほうが、はるかに多い
んです。

だから、信頼している人の情報でも正しいとは限らない。

全部鵜呑みにした後で、それは間違いだとわかったら、「だまされた!」と言って喧嘩になることや、相手を信用できなくなるこ

とだってあります。

でも、その人が「だますつもりじゃなかった」としたら、どうですか。怒るのはちよつと待て、となりそうですよね。

だから、③言葉や情報を時々疑ってみることは、人間関係を壊すどころか、よりケンゼンにすると考えてください。

では、なぜ疑う力を養うべきなんでしょう。

それは、あなたがフェイクニュースに振り回されないためであり、根拠もなく不安になることを防ぐためです。そして何より、正確な情報を得るためです。

世の中は情報の洪水状態です。何が正しくて何が誤りなのかを見分けるのは至難の業で、正確な事実をつかみ取るのは難しい。でも、疑う力が身につくと、情報の良し悪しを見極める力が高まります。

理屈はわかるけど、そんな力が簡単に得られるのだろうか——と思うでしょう。

確かに簡単じゃありませんが、不可能ではないのです。

まず、前提として自覚してほしいことがあります。

日本人は情報や他人の話を疑うのが苦手だ、ということ。^{*3}これには、日本独特の文化が影響しているのでしたね。

すなわち——日本は島国で、同じ価値観を共有しているという意識が高い、いわゆる「④」の文化を培ってきました。

和をもって貴しとなす——の国ですから、人の話を疑ってかかるなんて、貴い「和」を乱す不心得者かもしれません。

こういう文化の国で疑う力を養うのは難しい話で、⑤相手に疑問をぶつけるだけでも、嫌われる可能性があります。

つまり、日本では相手の話や情報を肯定的に受け止める習慣があり、疑う力の養成を邪魔しているわけです。

(中略)

誰かが確信を持って話すのを聞いて、たいいていの人は「へえ、そうなのか」とあっさり受け入れる。メディアの情報もSNSも、信じることを前提としている。

これが、日本の文化です。

そこに異を挟むのは、まさに「空気を読まない」行為ですね。「空気を読むのはやめよう」と訴えている私に言わせれば、笑止千万ですけど。

でも、多くの人に相手の話や情報を疑う習慣はないので、なかなか厄介です。

情報を常に疑って受け止めよう、と一念発起すると、これはかなり疲れます。しかも、ますます相手の話が理解できなくなる

⑥ 悪循環です。

なぜなら、事実を全部疑ってかかると、何の話も聞いていないのかすらわからなくなりますし、相手は途中で話をやめてしまうでしょう。それが記事なら理解不能となり、読み進められません。

だから、何でも疑ってかかるのは、正しい情報収集法とは言えません。

では、どうすればいいでしょう。

ヒントは、あなたが相手の話や情報に接したときの「違和感」にあります。

違和感という言葉は、よく耳にしますよね。じゃあ、違和感って何？ と問うと、定義するのは意外に難しくないですか。

ぼんやり「不快感」とか「賛成できないこと」などをイメージするかもしれませんね。

でも、スポーツ選手の体調について、記事で「肩に違和感があるので、治療に専念」と書かれているのを思い起こすと、少しイメージが変わりませんか。

こういうときの「違和感」は、「怪我をしているわけじゃないけど普段と少し違う」状態を指しています。

あれ、いつもと違うな。

何かひっかかるな、という感覚。

スポーツ選手の場合、体の違和感を無視すると、取り返しがつかない重症になることがあります。だから、彼らは違和感、つま

り無意識に近い「ひっかかり」に敏感びんかんです。

私が見なさんに持つてほしいのは、スポーツ選手の違和感いわかんに近いものです。おかしいな、何となく変だ、という「感じ」、その感覚です。

例を挙げてみましょうか。

(中略)

「日本の平和のために、自衛隊は必要です」と言われたとしたら、どんな印象を持ちますか。

違和感いわかんを持たない人は少ないと思います。じゃあ、立ち止まってこの違和感いわかんを深掘りふかほしてみましょう。

「 A 」

自衛隊イコール軍力で、つまり戦争する力を持つてことだろ。

「 B 」

なのに、軍力が平和のために必要だなんて、矛盾むじゆんしている。

そもそも戦争ができる軍力があると、平和を壊こわすかもしれない。そんなものは持たないほうがいいに決まっている――。

「 C 」

戦争って相手がいないと始まらないよね？

自分たちは戦争をするつもりがなくても、相手が戦争をしかけてきたら、平和は壊こわれるんじゃない？

「 D 」

戦争をしかけてきた国を撃退げきたいするしかないよね。

「 E 」

あの国には勝てないと思わせないと、相手は襲おそってくるかもしれない。だから自衛隊は必要だという見方もできるのでは？

こういう考えを「抑止力」と言って、国際政治のbセンモン家は、平和維持のために「抑止力は重要である」と考えています。それは、日本を軍事大国にしたい人の口実だと非難する人もいるでしょう。軍隊を持っていない国を誰が攻めるんだ、という発想もあるかもしれません。

そういう考え方を全否定はしませんが、世界中で今なお起きている戦争は、しかけた側の一方的な正義を理由にして、問答無用で始まっているのです。

実際のところ、軍事力を持たない国は、アツという間に攻撃され占領されます。

だから軍事力を持ちましょう、と言いたいものではありません。

平和を考えるときに、平和である状態だけを考えるのではなく、平和を乱されないようにしないと平和は続かないのでは、という視点も必要だという話をしたいんです。

他国から戦争をしかけられたときに自国を防衛するため、また抑止力のために、一定の軍事力は必要だというのは、暴論ではありません。

何と言っても、日本は世界第三の経済大国です。無防備であれば、日本の富を狙ってどこかの国、あるいは海賊が攻めてきてもおかしくない。

(中略)

その渦中かちやうにいる国が無防備だったら、夜もおちおち眠れないぐらい不安になりますか。

その不安を解消するには、自衛のための備えがいる。

自宅にお金があるから、泥棒対策の警備どろぼうをしていることをアピールする。それと同じ発想が、抑止力です。言ってみれば、自衛隊は「セコム」*のような存在なのです。

そうすると、「日本の平和のために、自衛隊は必要です」という言葉が、⑦違ちがって見えてきませんか。

違和感いわかんは確かにある。でも、その理由を探っていくと、「そういう考えは必要かもしれない」という理解が生まれます。

あれ、疑う力を持つのは、相手の話を疑って真実を探ることだったはず。なのに、今の話は結局、ある人の発言を「正しい」と言っているじゃないか、と思いましたか？

よく読んでくださいよ。

私は、「日本の平和に自衛隊が必要だ」という考え方を「正しい」とは書いていませんよね。「そういう考えは必要かもしれない」という理解が生まれる、と書きました。

要するに、それが正しいか間違まちがっているかを考える前に、その発言や情報は何を言おうとしているのか、なぜそんな発信をするのかを理解しなければ、何の判断もできない——そう言いたいのです。

違和感いわかんを抱いたから、それについて調べた。あるいは、その発言の背景を考えてみた。すると、勘違いかんちがしていたことや、知らなかった側面の事情が見えてきます。

「正しい」かどうかを考えると、多くの人はそこまで探らず、脊髄反射せきすいせきずいはんしゃのように「その通り!」「それは違ちがう!」と反応しています。

それは何より危険なことです。

つまり、違和感いわかんを持てば、何が正しいかに疑問を抱くだけではなく、自分が何を知っているか、あるいは知らないかに目を向けられるのです。

(『「正しい」を疑え!』 真山 仁)

(注)

- *1 SNS——登録された利用者同士がインターネットを通して交流できるサービス。
- *2 フェイクニュース——間違った情報で作られたニュース。
- *3 これにはぐでしたね——本文よりも前の章でこうした内容を筆者は述べている。
- *4 和をもって貴しとなす——聖徳太子が定めた十七条憲法の第一条の言葉。協調・協和の大切さを説く。
- *5 セコム——警備サービス会社。
- *6 脊髄反射——ある刺激に対して無意識的に即座に反応すること。

問一——線①「人を疑うなんて、よくないでしょ」とありますが、この考え方を生み出す要因として最も適当なものを本文中から二十字以内で探し、最初と最後の三字を抜き出さない。

問二——線②「それを気にしないほうが不ケンゼンですよ」とありますが、ここで筆者が言おうとしているのはどのようなことですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他人の考えと自分の考えとの相違を絶えず気にとめながら日々の生活を送るべきだということ。
- イ 他人の考えと自分の考えが違っている点を気にかけて両者の考えをすり合わせるべきだということ。
- ウ 他人の考えなのだから自分の考えと違うところがあっても当然だと認識しておくべきだということ。
- エ 他人の考えに自分の考えを合わせていくことに何の不満も抱かないようにするべきだということ。
- オ 他人の考えが知らぬ間に自分の考えになっていることに違和感を覚えられるようにするべきだということ。

問三——線③「言葉や情報をく考えてください」とありますが、なぜ人間関係がよりケンゼンになるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 情報だけを問題にしていれば、その情報の是非を問うだけで済み、情報提供者への否定にはつながらないから。
イ たとえ相手が誤情報を自分にもたらしけていても、それは自分への思いやりに基づいてなされた行為だと言えるから。
ウ 相手を疑わず、相手の情報のみを疑うということが、日本の文化にのっとった行動として互いに根付いているから。
エ 誰がくれた情報かに関係なく、その情報の是非を判断するのは自分であり、相手を責めることはできないから。
オ 情報自体を考えることは、結局情報をくれた相手を考えることにつながり、相互理解へと深まっていくから。

問四 空らん「④」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普遍性	イ 同一性	ウ 類似性	エ 絶対性	オ 民族性
-------	-------	-------	-------	-------

問五 —線⑤「相手に疑問をく可能性がありますが、この風潮を筆者はどのように捉えていますか。その答えとなる言葉を本文中から五字程度で探し、抜き出さない。」

問六 ―線⑥「悪循環」^{あくじゅんかん}とありますが、どのような点で「悪循環」^{あくじゅんかん}のですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手がどういふ思いでその話をしたのか分からず相手への不信感が増す一方で、その相手にさらに疑問を投げかけることで一層不信感が増してしまう点。

イ 相手を疑うという元来苦手な行為^{こうい}に疲れる^{つか}上に、疑えば疑うほど逆に相手を理解できなくなり、さらに嫌悪感^{けんおかん}を抱か^{いだ}れることになるという点。

ウ 相手の話に対して疑いの姿勢で臨むことに苦痛を覚え、さらに疑った相手からは嫌わ^{きら}れてしまうのではないかという不安を交えながらも疑い続けざるをえない点。

エ 相手の話の真意をつかむためには何でも疑問を投げかけねばならず、そのため「空気の読めない人」となってしまいが、真意の確認のためにはそれを繰り返^くすしかない点。

オ 相手の話を疑うという本来的に苦手なことをするために疲れる^{つか}にもかかわらず、疑うほど相手の言葉の真意がつかめなくなり、さらに相手の話を疑って疲^{つか}れてしまう点。

問七 本文中の空らん「A」から「E」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア でも、ちょっと待って！

イ 平和って、戦争がないことじゃないの？

ウ そのとき、平和を守りたい日本は、どうすればいい？

エ もっと言えば、平和を守るためには、相手に戦争をしかけさせないようにしたほうがいい。

オ 言^いい換^かえれば、平和を乱す力じゃないか。

問八 ―線⑦「違^{ちが}って見えてきませんか」とありますが、「違^{ちが}って見え」と、その結果どのようになりますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考え方に幅^{はば}を持たせてくれる、魅力^{みりょく}を持った考えだと気づく。

イ 正しいかは別として、自分の知見が広がる考えだということに気づく。

ウ ある面では正しいことを言っている考えだということに気づく。

エ 実^{じつ}はとても重要な真実^{まじつ}を含んでいる考えだということに気づく。

オ 正しいか間違^{まちが}っているかが分からない、あいまいな考えだと気づく。

問九 波線部「違^い和^わ感^{かん}」にあります」とありますが、筆者はなぜ「違^い和^わ感^{かん}」を持つことが重要だのですか。その理由を波線部よりも後ろから考えて、六十字以内で答えなさい。

問十 ―線 a「ケンゼン」・ b「センモン」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

二 次の文章を読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

一八九〇年にもう一人生^いまれはしました、そしてその男はいまでも生きてはいます。その男を知る者は一人もいません。なぜならその男はいま、もう発明家などいない時代に生きているからです。

一九三一年以降、発明家といえはその男一人だけです。

本人はこのことを知りません。というのも、そのときもう町中には住んでおらず、人前に出ることもなかったからです。なぜな

ら発明家には静けさが必要ですから。

男は町から遠く離れたところに住み、けっして家を出ることなく、訪れる者もめつたにありませんでした。

男は一日中計算し、図面を引いていました。男は何時間も腰かけたまま、額に皺を寄せ、手で何度も顔をこすり、そして①思索に「」のでした。

それから男は計算したものを取り、それを破り捨てると、気を取り直してまた一から始めるのでした。そうして晩になると、また仕事がかまういかなかったというわけで、不機嫌で怒りっぽくなるのでした。

男には、自分の図面を理解してくれる人がいませんでした。それに、ほかの人たちと話をしたところで、男にはなんの意味もありませんでした。四〇年以上も男は仕事に打ち込んできました。そしてあるときだれか訪ねてきたりすると、図面を隠してしまうのでした。アイディアを盗まれるのではないかと心配だったし、笑い物にされるのではないかと思ったからです。

男は早寝早起きをし、一日中仕事に打ち込みました。郵便も届かず、新聞も読まず、ラジオというものが存在することも、まったく知りませんでした。

そしてこのようにして何年かがすぎたある晩のこと、男はめずらしく上機嫌になりました。男は自分の発明品を発明したのです。こうなると、もうまったく寝食を忘れました。昼も夜も男は図面にかかりきりとなり、それらを検算しました。はたしてそれらにまちがいはありませんでした。

それから男は図面をくるくるとまわると、②何年かぶりに初めて町へ出ていきました。町はすっかり変わっていました。

むかし馬が走っていたところには、いまは自動車が走っていました。デパートにはエスカレーターがあり、そして汽車はもう蒸気式ではありませんでした。市電は地面の下を走り、いまでは地下鉄と呼ばれていました。それから持ち運びができる小さな箱からは音楽が聞こえてきました。

発明家はおどろきました。しかしそこは発明家です。男はすぐさますべてを理解しました。

男は冷蔵庫を見て、言いました。「ははあ、なるほど」

電話機を見て、言いました。「ははあ、なるほど」

それから、赤と青の灯あかりかりを見たときには、赤のときには待たなければならず、青のときは進んでいいことを理解しました。それで男は赤で待ち、青になると進みました。

③ こうして男はすべてを理解しましたが、あまりにおどろいて、自分の発明のことをほとんど忘れてしまふところでした。

男は気を取り直すと、ちょうど赤で信号待ちをしていた男の人に近づいていき、言いました。「④ あのうち、すまんが、僕は発明をしたのじゃ」

するとその紳士しんしは愛想あいそよく、言いました。「⑤ で、何がほしいんです」

発明家にはその意味がわかりませんでした。

「これはつまり重大な発明なのじゃ」と、発明家は言いました。ところがそのとき信号が青に変わり、二人は進まなければならなくなりました。

それにしても長いこと町に来ていないと、途方とほうにくれてしまうものです。それに、かりに発明をしても、それを持ってどこへ行けばいいのか、見当が付きません。

発明家に、「僕は発明をしたのじゃ」と声をかけられた人たちは、何と返事をしたらよかったでしょう。

たいていの人は何も言わず、中には発明家をせせら笑ったり、何も聞こえなかったふりをして、足早に先を急ぐ人もいました。発明家は人と話をしなくなって久しかったので、どのように会話を始めたらいいか忘れていたのです。男は、話のきっかけとして、「すみません、いま何時でしょう」とか、「きょうはひどい天気ですね」と言葉をかけるものだということを忘れていたのです。

男は、いきなり、「あのうち、僕は発明をしたのじゃ」などと言うのは、およそ場違ばちがいだということにはまったく思い至りませんで

した。それで、市電に乗っていて、「きようは好い天気ですね」と声をかけられると、男は「ええ、ほんとうに好い天気ですね」とは答えないで、⑥ここぞとばかりに、「あのう、僕は発明をしたのじゃ」と言う始末でした。

男はほかのことをもう何も考えられませんでした。なぜなら、男の発明は偉大で、とても重要で独特な発明だったのですから。もしも自分の図面にまちがいはないと、しっかりとした自信が持てなかったら、男自身それを信じることができなかつたほどです。

男は、遠く離れたところで起こっていることが見られる機械を発明したのです。

それで男は市電の中で急に立ち上がると、床の上の乗客たちの足元に図面を広げ、そして声を上げました。「ちよつとこれを見てくれんか。僕は、遠く離れたところで起こっていることが見られる機械を発明したのじゃよ」

乗客たちは、まるで何ごともなかつたかのようなふりをしました。人々は乗り込んで、降りていきました。すると発明家は大声で言いました。「どうか見てくだされ。僕はあるものを発明したのじゃ。これがあると、ずっと遠くで起こっていることが見られるのじゃよ」

「この人はテレビを発明したんだってさ」とだれかが大声で言うと、どつと笑いが起こりました。

「どうして笑うのじゃ」と、男は尋ねました。が、だれも答えてくれませんでした。男は電車を降り、街を歩きました。赤信号で止まり、青に変わるとどんどん歩き続け、とあるレストランで腰を落着けると、コーヒーを注文しました。そして隣りの客が、

「きようは好い天気ですね」と話しかけてくると、発明家は言いました。「どうか助けてくだされ。⑦僕はテレビを発明したのじゃ。」

けれどもだれも信じようとせん。——みんな僕は笑い物にしおる」。すると、隣りの客は口をつぐんでしまいました。客は発明家の顔をしばらくしげしげと見つめました。すると発明家は尋ねました。「どうしてみんな笑うのじゃろう」。「みんなが笑うのは」と、客は言いました。「テレビはとつくのおかしからあるし、それを発明する必要なんかなかったからですよ」。そう言って、レストランのすみに置いてあつたテレビを指さし、そして訊きました。「つけてみましょうか」

ところが発明家は言いました。⑧「いいや、見とうない」。発明家は席を立ち、出ていきました。

図面は置き去りにしていきました。

男は街を歩き、もう赤信号も青信号もおかまいたので、ドライバーたちはどなり、やれやれと指で額をたたくのでした。

これを最後に、発明家は二度と町へ出てくることはありませんでした。

男は家にもどり、今度はもう自分のためだけに発明をするのでした。

男は大きな紙を取り出し、そこに「自動車」と書き、何週間も何ヶ月も計算し、図面を引いては、自動車をもう一度発明しました。それから男はエスカレーターを発明しました。電話を発明しました。冷蔵庫を発明しました。

⑨男は、町で見かけたものをすべて、もう一度発明したのです。

そして、一つ発明をするたびに、図面を破り捨て、言うのでした。「これはもう発明されているのじゃ」

しかしながら男は、生涯正真正銘の発明家であり続けました。なぜなら、もう発明されてしまったものでも、それを発明するのは大変なことだし、それができるのは発明家だけからです。

(『発明家』 ペーター・ビクセル 山下 剛 訳)

(注)

*1 もう一人——ここより前の部分で、発明家としてエジソンが挙げられている。この「もう一人」とは、エジソン以外の「もう一人」ということ。なお、エジソンは一九三一年に亡くなっている。

*2 原文は「不気嫌」。後の「上機嫌」も原文は「上気嫌」。

問一 —線①「思索に「」とありますが、この部分が「考えに集中する・考えを深める」の意味になるように、「」に当てはまるひらがな三字を答えなさい。

問二 ―線②「何年かぶりに初めて町へ出ていきました」とありますが、このとき男はどのような気持ちだったと考えられますか。

その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が偉大な発明を成し遂げたことがとてもうれしくて、今の時代にも発明家は確かに存在しているということを人々に教えたいという気持ち。

イ 長年の苦勞が実りみごと偉大な発明にこぎつけたことで感激してじっとしていられず、久しく離れていた町の空気を吸いたいという気持ち。

ウ 自分の発明がうまくいき正確な図面も仕上げたことでうれしくて心が高揚し、町の人々に偉大な発明の事実を伝えたいという気持ち。

エ 自分が成し遂げた偉大な発明によって世の中が変わることを思うといってもたってもいられず、町の人々と喜びを分かち合いたいという気持ち。

オ 大きな仕事を成し遂げたという満足感と解放感から、いつもの生活とは違う町のにぎやかな空気の中で今の喜びを味わいたいという気持ち。

問三 ―線③「こうして男はすべてを理解しました」とありますが、男はどういうことを理解したのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昔あったものがなくなり町がすっかり変わり果ててしまっているということ。

イ 昔のものにこだわっているのはやはり偉大な発明はできないのだということ。

ウ 町で知ったいくつかの発明より自分の発明のほうが偉大だということ。

エ 町で初めて目にしたものがどのようなはたらきをしているのかということ。

オ 昔と比べて新しいルールが増えて窮屈な社会になっているということ。

問四 ―線④「あのう、すまんが、僕は発明をしたのじゃ」および―線⑤「で、何がほしいんです」の会話にはどのような働きがありますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男と町に流れる時間の違いを強く印象付ける働きがある。

イ 二人が貧富の差ゆえに分かり合えないことを示す働きがある。

ウ 男と町の人々との考え方にずれがあることを暗示する働きがある。

エ 男の発明に価値があることをそれとなく印象付ける働きがある。

オ 紳士が男の唯一の理解者であることを示す働きがある。

問五 ―線⑥「ここぞとばかりに」とありますが、この言葉を使った例文として正しくないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 落とし物を届けてくれた人に、ここぞとばかりにお礼を言った。

イ 相手チームのプレーの乱れを見て、ここぞとばかりに攻撃した。

ウ 夏のセールが始まったので、ここぞとばかりに買いあさった。

エ 一つ失敗したら、ここぞとばかりにこれまでのミスも責められた。

オ 叔父がご馳走してくれると言うので、ここぞとばかりにたくさん注文した。

問六 ―線⑦「僕はテレビを発明したのじゃ」とありますが、ここには男の困惑ぶりがうかがえます。それはどのような点にうかがえますか。次の説明の空らんA・Bに当てはまる言葉を本文中から探しなさい。ただし、Aは二十五字以内で、Bは三字で抜き出さなさい。解答らんにはAは最初の五字を、Bは三字すべてを記入すること。

《 男が発明したのは

A

であるのに、それを周囲の人が使った「

B

」という言葉で

表現してしまった点。 《

問七 —線⑧「『いいや、見とうない』。発明家は席を立ち、出ていきました」とありますが、発明家がこのように言って出て行った理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の発明よりも町で見た発明のほうが偉大であつたことを見せつけられてしまい、悲しくなつてしまったから。

イ 発明の苦勞を何も知らないくせにさも分かつたふうなことを言う隣りの客に、負けてはならないと意気込んだから。

ウ すでに世の中にあるものは今さら発明する必要はないという理屈に嫌気がさし、話を続ける気がしなかったから。

エ 自分の発明品は実は発明する必要がなかったものだと思はされ、その場に居続けることが申し訳なく思われたから。

オ 何年もかけてやつとの思いで発明したのに先を越されていたとわかり、発明家としての才能に自信を失つたから。

問八 この作品を学校の授業で勉強した生徒たちが、—線⑨「男は、町で見かけたものをすべて、もう一度発明したのです」の箇所について感想を出し合いました。本文の内容を踏まえた上での感想として適当でないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア Aさん——「ちよつと不器用な感じですけど、発明という仕事に対する男の純粋な思いが伝わってきます。」

イ Bさん——「私も、なんだか男の執念しゅうねんというか、発明に対するなかなか理解されにくい情熱のようなものを感じます。」

ウ Cさん——「まあ、少しは社交性を身につけたほうがいいかもしれません。そうでないと、せっかく発明しても社会に役立てることができませんから。」

エ Dさん——「確かに上手に人付き合いができるタイプには見えませんが、そもそも男は発明品そのものにこだわっているようには感じられませんか。」

オ Eさん——「図面を破り捨てるわけだし、なんだか、男は発明するという行為にこそ価値を認めていたのではないでしようか。」

問九 本文の表現上の特徴とその効果についての説明として最も適当なものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 発明という誰もが一度はあこがれるであろう話題をわかりやすい単純な言葉で描写することにより、読者に親しみを持たせ、世代を越えて読まれる作品となっている。

イ 現実には存在しないような人物の行動を平易な言葉でわかりやすく描写することで、話を理解しやすくなるが、人間関係の複雑さと奥深さを読者に感じさせている。

ウ 作品の舞台を「町から遠く離れたところ」と「町」というように明確に分けて描写することで、主人公の心理の揺れ動きを理解しやすくしている。

エ 登場人物を「男」や「発明家」とし、季節や町の名前も特定しない語り方により、物語の世界を固定化せず奥行きのあるものになっている。

オ あえてわかりやすい言葉ばかりを用いて複雑な表現を避けることで、かえって日常敬遠されがちな難解な思想を読者に伝えることに成功している。

カ 作中に何度か信号が出てくるが、それに対し主人公がどのように行動するかが描かれることで、主人公の心情の変化が伝わるようになっている。

